長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者　後藤隆徳

年月日　　平日＝２０１１年０３月１０日（木・晴）＝２１名
　　休日＝２０１１年０３月２７日（日・晴）＝１８＋１名

回　数　　２００９期＝第２２回巡礼
　　２０１０年＝第１１回巡礼

巡礼寺・順　　今回お寺はない

距　離　　戸田・大行寺～戸田峠～修善寺・北又集落＝約１６Ｋｍ

タイム　　下土狩７：２０―三島―修善寺観光会館―戸田峠―戸田・大行寺発９：００―戸田峠１２：００～１３：００―修善寺・北又集落１４：３５

温　泉　　修善寺・かんぽの湯（６００－）

法話等　　なし

引用文　　「伊豆霊場振興会」ＨＰから引用しました。

伊豆八十八札所巡礼には、三つの難所がある。四国流に言えば「遍路ころがし」という。一番は「箱根越え」で、三島を朝出発し二十一番・龍澤寺、二十二番・宗福寺を経て、函南原生林を通過し二十三番・東光寺までの道。

三島広小路の標高は約５０ｍ、東光寺の標高は約７５０ｍ。その標高差は約７００ｍだが、ここの道は圧倒的な長さがある。

二番は今回の「戸田峠越え」。戸田・大行寺の標高はほぼ０ｍ。ここから標高約７２０ｍの戸田峠を越えて修善寺に至る。ここは箱根より標高差は少し多いが、道は急激に上り短い。その分、箱根に比べれば負荷は少ないと言える。

そんな事を考えながらバスの人となり戸田峠を越えて大行寺着。平日・休日とも晴天で気温は低く、巡礼にはうってつけの日和だった。大行寺から戸田大川を遡る。平日時は川端の桜が目を楽しませてくれた。

しばらく進み橋を渡って国道に出る。平日時交通量は少ないが、休日時は多い。特にこの時期、バイクが多く騒音が堪らない。また、バイクはカーブの内側を喰い込んで来るのでボサ～と歩けない。先頭を行く私はその都度「金剛杖」を伸ばして牽制する。これは効果があった。

平日班

休日班

再び戸田大川の達磨橋を渡る。この辺りから本格的な上りが始まる。とにかくここは我慢で上るしかない。日向は案外暑いが、日陰はちょっと寒い。この時期、体温調整が難しい。

峠まで約３時間掛る。適当に休憩し、歩くのが辛くなればバスのお世話になる。それでも少しずつだが高度を上げて戸田湾が見渡せる程になった。道路周辺には桜がチラホラ咲いていたり、香花の開花が見る事が出来たり、それなりに楽しい。中には崖下にバイクが落ちたりしていた。

瞽女（ごぜ）展望台に到着。ここまで来れば峠は近い。では、瞽女（ごぜ）とは一体なんだろう？？

・・・盲目の女性旅芸人。三味線を弾き、歌を歌って門付（かどづけ）をしながら、山里を巡行し暮らしをたてた。「ごぜ」の名は、中世の盲御前（めくらごぜ）から出たといわれるが確証はない。座頭のような全国的組織はもたず地方ごとに集団を組織して統率するとともに、一定の

縄張りを歩くことが多かった。

近世の諸藩では、駿府（すんぷ）（静岡市）や越後（えちご）の高田、長岡などのように、瞽女屋敷を与えてこれを保護し、集団生活を営ませることによって支配する所もあった。

今日わずかに命脈を伝える越後の高田瞽女からの聞き書きによれば､高田では親方とよばれる十数人の家持ちの瞽女がいて、親方はさらに座と称する組織を結成し、修業年数の多い瞽女が座元になって座をまとめていたという。

仲間内には掟（おきて）があった。違反者は罰せられて追放された。それを「はなれ」といった。「縁起」や「式目」を伝えている所もある。瞽女は 3 人ないし数人が一団になって巡遊した。娯楽に乏しい山村では大いに歓迎された。昼間は門付に回り、夜は定宿に集まった人々を前に芸を披露した。

葛（くず）の葉（は）子別れや小栗判官（おぐりはんがん）などの段物をはじめ、口説（くどき）、流行唄（はやりうた）というように語物（かたりもの）や多くの唄を管理した。近年は昔話や世間話の伝播（でんぱ）者としても注目を集めている・・・。

（yahoo 辞書から転載）

古の旅人もこの峠を苦労しながら越えたであろう。その苦労は歩いてみなければ分からない。それはお地蔵様だけが知っていた。

瞽女（ごぜ）展望台

戸田峠バス停

平日・休日とも全員無事峠を越えた。ここから修善寺まで下り。やっぱり下りは楽だ。達磨山レストハウスで昼食・休憩。ここから富士山・愛鷹連峰・箱根連山・駿河湾・東部の平野は見事で素晴らしく感動的な景観だった。

両日ともやや風があって寒かった。風下で昼食をいただく方、バスの中で食べる方、様々だった。

寒いので兎に角、温泉で早々に出発。すぐ下の伊豆山稜線歩道の芝生道を下り、途中から修善寺・北又集落に向かう。北又集落は日当たりが良く牧歌的で解放感溢れる桃源郷だった。シイタケ栽培が盛ん。

シイタケ農家

見事な桜

休日時、集落に下って行くとシイタケ業者のオジさんが乾燥作業をしていた。本来、天日干しが良いのだが、大量になると機械乾燥になる。しばし世間話が終わると、オジさんが開口一番「シイタケ持ってケ」と言った。

商品にならない大きいモノ・形の悪いモノ・色が悪いモノは自家用にする。それを大量に天日干しにしてあった。

オジさんの好意を無駄に出来ない。皆でシイタケにワラワラと群がった。機転が利くＡさんが袋まで貰って来た。お金も要らないと言うが、それでは余りに申し訳ないので、一人１００－を置いて来た。

このシイタケ、翌日１日天日干し味噌汁でいただきましたが、とても美味しかった。

北又川と湯舟川の出合いまで下ったが、道路工事中だったので少し上り返し今日の巡礼を終わった。皆さん、今日は本当によく頑張りました。合掌

伊豆山稜線歩道

峠への道

達磨山レスト
ハウス
休日班